

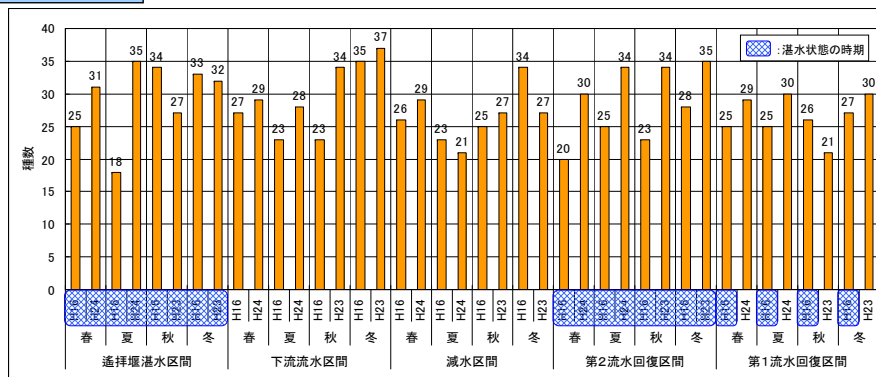
(5) 動物

1) 鳥類

【参考資料 I-102～I-105 参照】

評価項目	視点	今年度の調査結果概要	評価概要
経年的な変化状況	全確認種数	・H16と比較した場合、春季は全区間でやや増加傾向、夏季は減水区間を除く区間でやや増加傾向であった。	・全体的に種数が増加傾向にあることから、 <u>荒瀬ダム関連の撤去工事によって種数が減少するような影響は見られない。</u>
	魚食性種の種数 砂礫産卵種の種数	・H16と比較した場合、春季は魚食性種に大きな変化はなく、砂礫産卵種は上流でやや増加傾向にあった。夏季は、魚食性種は第2流水回復区間でやや増加傾向であるが、砂礫産卵種には大きな変化は見られなかった。	

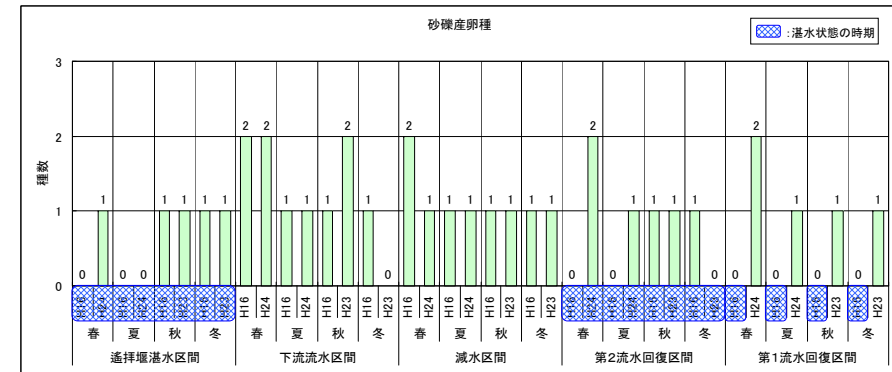
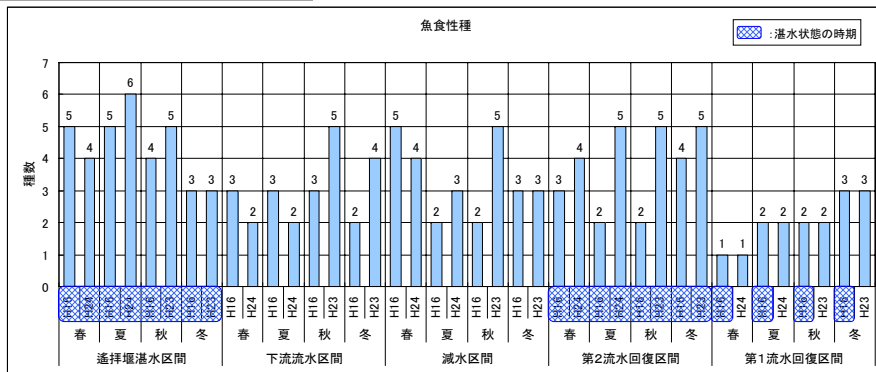
鳥類の全確認種数



【用語の解説】

- ・**魚食性種**：魚類を主な餌とする肉食性の鳥類。荒瀬ダムの撤去によってダム上流域の水位が低下し河岸の浅瀬が多くなると、ここに集まる魚類を狙って魚食性の鳥類が多くなると思われる。代表例として、ミサゴ、カワウ、アオサギ等のサギ類、カワセミ、カワアイサが挙げられる。
- ・**砂礫産卵種**：砂礫地で巣をつくり産卵する鳥類。荒瀬ダムの撤去によってダム上流域の水位が低下し砂礫河原が多くなると、ここで繁殖する鳥類が多くなると思われる。代表例として、イカルチドリ等のチドリ類、イソシギ、コアジサシが挙げられる。

鳥類の魚食性種と砂礫産卵種の種数



項 目	遙拝堰湛水区間								下流流水区間								減水区間								第2流水回復区間								第1流水回復区間									
	春		夏		秋		冬		春		夏		秋		冬		春		夏		秋		冬		春		夏		秋		冬		春		夏		秋		冬			
	H16	H24	H16	H24	H16	H23	H16	H23	H16	H24	H16	H24	H16	H23	H16	H23	H16	H24	H16	H24	H16	H23	H16	H23	H16	H24	H16	H24	H16	H23	H16	H23	H16	H24	H16	H24	H16	H23	H16	H23		
魚食性	カワウ		○(3)		○(5)	○	○(87)	○	○(306)					○	○(6)			○	○(1)			○	○(5)	○	○(19)			○		○(2)	○	○(21)			○	○(1)	○	○(11)	○(1)			
	ゴイサギ	○		○	○(2)					○		○						○	○(1)				○			○		○		○(1)	○	○(1)										
	ダイサギ	○	○(3)		○(4)	○	○(1)			○	○(2)	○	○(6)		○(2)			○	○(2)	○	○(3)		○(1)			○		○		○(1)												
	ユサギ	○	○(4)	○	○(1)	○	○(5)	○						○	○(2)			○			○(3)	○	○(3)		○(2)		○(1)	○	○(3)	○	○(2)			○(1)		○						
	アオサギ	○	○(16)	○	○(40)	○	○(17)	○	○(4)	○	○(3)	○	○(11)	○	○(14)	○	○(6)	○	○(4)	○	○(5)	○	○(4)	○	○	○(3)	○	○(3)	○	○(9)	○	○(3)	○	○(1)	○	○(2)	○	○(6)	○	○(2)	○	○(4)
	ミサゴ			○(3)		○(1)		○(1)						○(2)		○(3)							○(1)		○(2)		○(2)		○(2)		○(3)		○(3)									
砂礫産卵		○(1)			○	○(5)	○	○(1)	○	○(2)	○	○(3)		○(1)		○(3)		○		○	○(2)				○(3)		○(6)					○(2)		○(4)								
																									○(3)		○(3)		○	○(2)	○	○(1)		○(3)								